

大学のFD活動において、初年次教育、アクティブラーニング、シラバス設計、成績評価などについては多くの実践や知見の共有がなされている。その一方で、大学教育の出口にあたる卒業論文の指導や研究室の運営については、どんな課題があるのかはよく知られていない。卒業論文を学生に書かせることにはどんな意義があるのか、指導教員が果たす役割はどのようなものか。

神戸大学教授 近田政博

よかれと思って裏目に
出る難しさ

米映画「ゴッドファーザー」シリーズをご存じの方が多いと思う。言わずと知れたマフィア映画の金字塔であるが、通底する主題は父と息子の絆である。父は幼少期にシチリア島から命からがら逃げ出し、ようやくたどりついたニューヨークで、生来の律儀さで仲間

の信頼を得て真家業のドンのし上がり、妻子を慈しみながら、巨大な「ファミリー」を形成していく。

父の晩年に思いがけず跡目を継いだ三男坊は、「ファミリー」を維持するために、心を鬼にして

「昔の自由放任的な研究指導スタイルを、今の研究室に持ち込んだらムチャクチャなことになる」という話を同僚教員から聞くことはよくある。

その本質は、社会状況や学生が大きく変化したこともあり、「教員がよかれと思ってやること」が裏目に出てしまうという点にある。実はアカデミック・ハラスメントはこのパターンが多い。たとえば、教員がいさづ

ら固有な名詞として認識される存在である。第二は、期間が長いことである。授業を担当教員と接するのは履修期間に限られるのに対して、ゼミや研究指導での人間関係は多くの場合、複数年にわたる。第三は能動的な学びが欠かれないことである。講義形式の授業では

知識は教員から半ば自動的に与えられるので、学生は受け身になりやすい。指導教員は自分で試行錯誤しなければならぬ。第四は

「昔の自由放任的な研究指導スタイルを、今の研究室に持ち込んだらムチャクチャなことになる」という話を同僚教員から聞くことはよくある。

その本質は、社会状況や学生が大きく変化したこともあり、「教員がよかれと思ってやること」が裏目に出てしまうという点にある。実はアカデミック・ハラスメントはこのパターンが多い。たとえば、教員がいさづ

ら固有な名詞として認識される存在である。第二は、期間が長いことである。授業を担当教員と接するのは履修期間に限られるのに対して、ゼミや研究指導での人間関係は多くの場合、複数年にわたる。第三は能動的な学びが欠かれないことである。講義形式の授業では

知識は教員から半ば自動的に与えられるので、学生は受け身になりやすい。指導教員は自分で試行錯誤しなければならぬ。第四は

知識は教員から半ば自動的に与えられるので、学生は受け身になりやすい。指導教員は自分で試行錯誤しなければならぬ。第四は

卒業論文を書かせることの意義

指導教員の役割は何か

聖域化しがちである。このため事務局の知らないところで問題が深刻化しやすい。

第一は、卒業論文は大学院生活におけるアクティブラーニングの総仕上げとして位置づけられることである。学んだ知識を復習し、咀嚼し、自分の主張を行うために再びの基本的スタンスは、学生を励まし、彼らに高い期待を寄せることである。たとえば、教員自身の研究体験を学生に語る

教員は相手の学生とタイミングに合わせて適切な発問を用意する必要がある。自己マネジメントの難しさを実感させる。第三は、卒業論文を書くという経験は自己マネジメントの重要性を学生に体感させる機会となることである。指導教員としての基本的スタンスは、学生を励まし、彼らに高い期待を寄せることである。たとえば、教員自身の研究体験を学生に語る



「自分かセミで育ててもらったときの家族的なやり方は、今どきの学生には通用しない」と

「今度はいつ発表しますか」「もっと研究室に来なさいよ」と

「今度はいつ発表しますか」「もっと研究室に来なさいよ」と

「今度はいつ発表しますか」「もっと研究室に来なさいよ」と

「今度はいつ発表しますか」「もっと研究室に来なさいよ」と

「今度はいつ発表しますか」「もっと研究室に来なさいよ」と

「今度はいつ発表しますか」「もっと研究室に来なさいよ」と

「今度はいつ発表しますか」「もっと研究室に来なさいよ」と

「今度はいつ発表しますか」「もっと研究室に来なさいよ」と